



玉乃井
 景清
 安津原
 九

津田文庫
 文庫 1
 1764
 8



早稲田大学
図書館蔵書

玉井

つだ文庫

それありちひけら
しより夫社七代地社
ありりりてそのみ
あり相もれか
のさのつり針むむりらめあ

010190605359

あれたあはくびりしむあふ付
よくりく 早稲 扱も扱ちつと

の森りくふちしむきしむ
乃節ふ入ぬきしむのからく
志くらくらくしむのあふあ
井ありげ井のあはくはく

るたふれつあはくはくは
の本ありものあはくはく
ら 世イ世ス のあはくはくは
なぬ 世イ世ス のあはくはくは
あはくはくはくはくはくは
あはくはくはくはくはくは
あはくはくはくはくはくは
あはくはくはくはくはくは

夫そん地獄に代りて
 まよ手付今に何とら
 あくはなまの流るる
 かのりもはるる
 も我あつて
 夫そん地獄に代りて
 まよ手付今に何とら
 あくはなまの流るる
 かのりもはるる
 も我あつて

夫そん地獄に代りて
 まよ手付今に何とら
 あくはなまの流るる
 かのりもはるる
 も我あつて
 夫そん地獄に代りて
 まよ手付今に何とら
 あくはなまの流るる
 かのりもはるる
 も我あつて

東よさしきまらるるしきしき

あるが友と何とさかやんあ

こりあふりー^三ちりー^三らぬ^三神

是の結美しきれ美^三か^三く^三

乃^三瓜^三ら^三一^三結^三ぶ^三ど^三人^三の^三結^三る^三

然^三に^三さ^三ら^三し^三お^三り^三結

昔^三に^三あ^三り^三の^三あ^三の^三さ^三く^三

ま^三あ^三り^三神^三の^三あ^三ひ^三の^三あ^三

ま^三あ^三り^三神^三の^三あ^三ひ^三の^三あ^三

あ^三り^三の^三あ^三ひ^三の^三あ^三

く^三の^三あ^三ひ^三の^三あ^三

あ^三り^三の^三あ^三ひ^三の^三あ^三

ひゆりまじりて枝こぶしのさかりしまれ
 糸物ひなもんとあまのとあのせ
 ちりり二人のあまのまはのせ緒とま
 きらるはとおひのまはさえだ
 るのしのりの付まりの道よとり付
 ちりりと又緒まのとゆりり

素清

消ぬんりの風おれはく
 霧の男いにおねんもる
 梅香龜うえんり若よん丸やり
 女このいねと花あはれ七あ素素
 湯の平あ乃みさたるいり深

國の邊にありては

やうくはもつては

つねりひの

を河は後とて

くもよきとて

くもよきとて

くもよきとて

くもよきとて

枕邊とて

よく

の

後

の

年

の

の

の

て又よしのめしはむありし
よその^{三十五}せうはん徳らちて年月
よそのりしつらなほえんあはれし時
あそびのうたがたぬあはれんく
よその^{十六}なほあはれんく
よその^{十七}なほあはれんく
よその^{十八}なほあはれんく

よその^{十九}なほあはれんく
よその^{二十}なほあはれんく
よその^{二十一}なほあはれんく
よその^{二十二}なほあはれんく
よその^{二十三}なほあはれんく
よその^{二十四}なほあはれんく
よその^{二十五}なほあはれんく
よその^{二十六}なほあはれんく
よその^{二十七}なほあはれんく
よその^{二十八}なほあはれんく
よその^{二十九}なほあはれんく
よその^{三十}なほあはれんく
よその^{三十一}なほあはれんく
よその^{三十二}なほあはれんく
よその^{三十三}なほあはれんく
よその^{三十四}なほあはれんく
よその^{三十五}なほあはれんく
よその^{三十六}なほあはれんく
よその^{三十七}なほあはれんく
よその^{三十八}なほあはれんく
よその^{三十九}なほあはれんく
よその^{四十}なほあはれんく

人...
た...
...
...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

景清

三

年^もあつたはるけきとてあはれなき

かたはつたはるけきとてあはれなき

たつたはるけきとてあはれなき

たつたはるけきとてあはれなき

たつたはるけきとてあはれなき

たつたはるけきとてあはれなき

たつたはるけきとてあはれなき

たつたはるけきとてあはれなき

たつたはるけきとてあはれなき

たつたはるけきとてあはれなき

たつたはるけきとてあはれなき

たつたはるけきとてあはれなき

うく。かよふたれに何のむかひもなした

とてたの種命毎のる者のたに能

け。並し。別ぬ。転ふと。想し。も。又よ

向く。朝と。うら。ひ。あ。く。ら。み。と。曲。能

と。か。る。ぬ。道。目。を。あ。あ。の。つ。て

心。一。ら。社。中。に。転。の。ま。り。あ。り。て。く

い。ら。い。わ。い。り。ま。ま。の。後。の。ら。ら

人。と。い。何。の。は。用。と。し。め。を。あ

た。人。の。あ。り。ま。も。は。な。い。誠。人

よ。あ。て。い。ま。ら。ま。人。と。し。た。約。い。た

半。あ。る。は。あ。ら。た。六。本。兼。清。と。う。ら。ひ

ら。あ。い。ま。あ。い。ま。あ。い。ま。あ。い。ま

御書
御書

御書
御書

御書
御書

御書
御書

御書
御書

御書
御書

御書
御書

御書
御書

御書
御書

御書
御書

御書
御書

御書
御書

花一梓トらト青トふトるトのトのトるトるトのト思ト
 心トこトいトへトとトさトくトたト又トうトらトわト
トキトホトのト後トあトるトキトホトあトらトるトのト思ト
 心トあトくトまトしトたトめトあトらト梅トよトらトらト
 乃ト後トとト失トふトよトいトるト人トかトらトあトるト
 思トのト思トひトとト腹トわトくトよトあトらト

思トのト思トひトかトりト梅トさト月ト社トらト
 心トしトとトくトもト火トのト思トくト一トまトのトらトいト
 思トのト思トひトのト松ト風ト社トらト音トよトらトぬトたトのト
 思トのト思トひトのト思トひトとト又ト浦トさトんト様ト
 思トのト思トひトのト思トひトのト思トひトのト思トひトのト思トひト
 思トのト思トひトのト思トひトのト思トひトのト思トひトのト思トひト

昔は門の松のうららかに
 是は門の松のうららかに
 藤成らしておさくさく月
 雅より色あはれぬあま
 花をよみゆかたもあま
 とるはれらの舟のやうに
 ありしはあまのうら
 かに
 花をよみゆかたもあま
 とるはれらの舟のやうに
 ありしはあまのうら
 かに

花をよみゆかたもあま
 とるはれらの舟のやうに
 ありしはあまのうら
 かに
 花をよみゆかたもあま
 とるはれらの舟のやうに
 ありしはあまのうら
 かに
 花をよみゆかたもあま
 とるはれらの舟のやうに
 ありしはあまのうら
 かに

平家のあつめと袖く一人とかん
 ゐのわんの折袖だりねのひんて
 何の平家の侍の七の兵の東の兵の
 とあののりの意のくのなのせんのさのさのふ
 てねのびのもののやのさのりの甲のののあのあ
 とねのりのくのたのとのあのひのののひのたの

平家のあつめのののとの冠のりの甲のとの連
 ねのあのやのとのりのねのまのりの切のてのいのあ
 一のとのあのいのまの入のあのひのののひのあの連の
 海のとの物のりのまのまのてのもの海の怨のしのやの腕の
 一のつのまのとのまのれのあの清のいのとのりのやの
 青ののの骨のはのつのまのれのとのあのひのてのまのりのののたの

我ら此の世に在りては、
道に迷ふ者多し。其の
由は、心の中に、
煩悩の塵埃、積りて、
光明の慧眼、蒙らざる
が故なり。是れを去る
に、戒律を守り、
修行を怠らざるべし。
唯、心の中に、
慈悲の種子、生ずる
べし。是れが、
解脱の道なり。

十一

我ら此の世に在りては、
道に迷ふ者多し。其の
由は、心の中に、
煩悩の塵埃、積りて、
光明の慧眼、蒙らざる
が故なり。是れを去る
に、戒律を守り、
修行を怠らざるべし。
唯、心の中に、
慈悲の種子、生ずる
べし。是れが、
解脱の道なり。

十二

十三

杜若

十二終

下女
 神のからゑの 聖 神白妙のきの花れ若
 乃もあしとあくるまはれあわさ
 ばあはれあなまのこゝろにわられんし
 らもあしとあくるまはれあわさ
 めん今社もあまらしくあつる花れ
 乃もあしとあくるまはれあわさ

安達原

曲出本拍子 佐用 君

一
 梅の衣はすうひのしく露多
 神もあはれん 聖 先六なまの
 うくう坊乃あしやわい
 乃我のあり 聖 乃あはれん
 乃あはれん 聖 乃あはれん

ちうぶにまぐらわらうや日の

くまぐらわらうやうまの

おまぐらわらうやうまの

まぐらわらうやうまの カニ 人

のまぐらわらうやうまの

まぐらわらうやうまの

まぐらわらうやうまの

まぐらわらうやうまの

まぐらわらうやうまの

まぐらわらうやうまの

まぐらわらうやうまの

まぐらわらうやうまの

かなひあはらひくもほほに
 と。憐果のふんさなほほそ
 是地あま風乃らにきくも海
 さりりく生たふらん又道六
 なよめくばらふんまひあり
 かなよそくわらわらふん

昔

さらひ人きりてさき事ありあ
 よよしごがらあゆみしあ
 乃よよがさやいさなる我ありあ
 かなんも眼てさきひありあ
 母そとあ糸わらひくりあ
 かなハ シテ上 回けの糸のうみあり

あつぐはつぐ ^平 ねんまはるまはる

さつぐはつぐ ^平 まるまはるまはる

はつぐはつぐ ^平 まるまはるまはる

あつぐはつぐ ^平 まるまはるまはる

あつぐはつぐ ^平 まるまはるまはる

あつぐはつぐ ^平 まるまはるまはる

あつぐはつぐ ^平 まるまはるまはる

あつぐはつぐ ^平 まるまはるまはる

あつぐはつぐ ^平 まるまはるまはる

あつぐはつぐ ^平 まるまはるまはる

あつぐはつぐ ^平 まるまはるまはる

あつぐはつぐ ^平 まるまはるまはる

海のやうな屋をあらたけりて

より一塩

さらけりて

なるかきりておほい地をあらけ

老一え、え

あつたての西の鬼一

はらけりておほい地をあらけ

下

あらわたりておほい地をあらけ

あつたての西の鬼一

あつたての西の鬼一

あつたての西の鬼一

あつたての西の鬼一

あつたての西の鬼一

あつたての西の鬼一

耳とこしほのよのけく
 乃ほれよ下慈せん上糸月の下まのれら
 ぎくともわあし下人乃む
 お乃のせんともり下こまのり
 いらるん下とねひ上をほひ
 いらるん下のあらく上惟る

おまやりのあり下いしあり
 せと下ゆるら上る下程上中下の上飛下のわ
 られつ下然上の下惟上ら下ら上と下も上ら
 本もあ下ぬ上中下の上あ下る上る下ら
 ぎく下あ上わ下る上し下乃上唱下あ上ら下て
 又た下し上も下た上物下と上き下る上る下ら上む

